I-34-(125)

タイ国立ガンセンター
年次協議調査団報告書
(48, 47年度)

昭和50年2月

国際協力事業団

JICA LIBRARY

JICA LIBRARY
1042173[3]

国際協力事業団
受入月日 '84. 3. 21
登録No 01169
122
94
MO

目　　次

1. はじめに …… 1

2. 団長報告 …… 1

3. 団員報告 …… 14

4. R／D …… 23

5. 47年度年次協議報告 …… 42

1. はじめに

わが国のタイ国に対する技術協力の一環として実施しているタイ国立ガンセンター協力は、第一次5ヶ年計画の早期ガン発見部門を既に終了し、これにひき続き第二次3カ年計画による「ガン治療部門」協力を実施中であるが、タイ側による病院建設工事等が当初予定より大巾に遅延するなどわが方の専門家派遣をはじめとする協力も幾度か変更を余儀なくされるなど思うように実施し得なかったのが実情である。

かかる実情にもとづき、今般わが方より年次協議調査団を現地に派遣しタイ国立ガンセンターはじめ厚生省等関係当局との間で協力期間延長をも含めて本件協力について話し合いを行い、今後のあるべき方向づけを行うこととなった。

以下はその報告である。

2. 団長報告

タイ国立ガンセンター医療協力事業に関する年次協議報告書

林　　弘

1　年次協議の目的

タイ国立ガンセンター（NCI）プロジェクトに関する医療協力事業は、昭和50年3月31日で終了する予定であったが、NCIの病院建設工事が遅れ、期限までに治療部門の機能を整備する見透しが難かしくなった。

従って、NCIの治療部門の活動開始を促進するとともにNCIの機能が可及的速かに自力で発揮されるようにするため、今回は医療協力期間を2年程度延長することに重点を置き、専門家の派遣、研修員の受入れ及び機材の供与に関しては、タイ側の要望を聞くに止めることとする。

また、プロジェクト推進のうえで、専門家の短期派遣が必要となった場合、随時に派遣できるような措置を講じる必要がある。

2　年次協議調査団の編成及び派遣期間

(1)　編　成

林　　弘	団　長	国立ガンセンター運営部長
伊藤　一二	スーパーバイザー	国立ガンセンター病院病棟部長
北川　俊夫	〃	国立ガンセンター病院放射線治療部長
小山　靖夫	専門家として先発	国立ガンセンター病院外科医長
石崎　光夫	調　整	海外技術協力事業団

(2)　派遣期間

自　昭和49年2月18日

至　昭和49年2月27日　　10日間

3 日　程

2月18日(月)	10:30	東京発　JAL461
	16:50	バンコック着　フロリダホテル
	18:00	日本側関係者打合せ
2月19日(火)	8:00	OTCAバンコック事務所訪問　桑原所長　熊岸、森本
	8:30	日本大使館訪問　藤崎大使、天羽公使、濱崎書記官、鈴木書記官
	10:00	NCI訪問　治療部門視察 Dr Somchai
	14:30	総理府技術経済協力局(DTEC)訪問 局次長　Mr Apilas　第二海外部長Mr Wanchai 全体会議
	19:00	OTCA　所長主催ディナー
2月20日(水)	9:00	全体会議　於NCI
	14:00	個別協議 林、石崎　運営部門 伊藤　外科、臨床検査　化学療法 北川　放射線診断、治療
2月21日(木)	9:00	全体会議　於NCI
	14:30	全体会議　於NCI
2月22日(金)	9:00	R.D.作成打合せ　於OTCA事務所
	14:00	公衆衛生省訪問 Dr Komol 次官
	15:00	R.D.打合せ　於OTCA事務所 DTEC修正案の取扱い
	19:00	Dr.Somchai 宅ディナー
2月23日(土)	休　日	
2月24日(日)	休　日	
2月25日(月)	9:00	NCI　診断部門視察
	10:00	全体会議　於NCI RD最終討議
	12:30	Dr.Komol 主催　昼食会
	14:00	日本側RD最終打合せ
	18:00	公衆衛生省医療保健局主催　夕食会
2月26日(火)	9:00	R.D.最終整理
	18:30	R.D.調印式　日本側主催　夕食会

2月27日（水） 10:55 バンコック発 JAL716
21:05 東 京 着

4 議 題

(1) プロジェクトのレビュー

(2) 将来計画

(3) 1974年度の計画

(4) そ の 他

5 出 席 者

氏 名	職 名	19日	20	21	25	26
林 弘	国立ガンセンター運営部長	○	○	○	○	○
伊藤一二	〃 病棟部長	○	○	○	○	○
北川俊夫	〃 放射線治療部長	○	○	○	○	○
小山靖夫	〃 第五病棟医長	○	○	○	○	○
石崎光夫	JTCA 医療協力部	○	○	○	○	○
後藤昭夫	調整員	○	○	○	○	○
桑原正男	JTCAバンコック事務所長	○			○	○
熊岸建二	同上職員	○	○	○	○	○
天羽民雄	日本大使館公使					○
須崎克己	〃 一等書記官	○			○	○
鈴木伸一	〃 二等書記官	○			○	○
Dr. Komol Pengsritong	公衆衛生省 次官					
Dr. Kong Suvarnarat	公衆衛生省医療保健局次長				○	○
Dr. Vimol Notananda	同 上					○
Mr. Apilas Osatonanda	経済開発庁技術経済協力局次長	○				○
Mr. Wanchai Siriratina	〃 (DTED) 第二海外部長	○				○
Mr. Pichet Soontornpinit	〃	○				
Mr. Pracha Chaowasilp	〃	○				
Miss. Chantana Indragarjita	〃	○	○	○	○	

Mrs. Nongnath Meeprasert	総理府技術（DTEC）第二海外部長	○	○	○	○	
Dr. Somchai Somboonchareon	タイ国立ガンセンター（NCI）所長		○	○	○	○
	NCI所長　秘書		○	○	⊙	
Dr. manop Kaewjinda	NCI外科部長		○	○	○	○
Dr. Phisit Punthumchinda	NCI放射線科部長		○	○	○	○
Dr. Silivalai Thanapatra	NCI病院臨床検査部長		○	○	○	○
Dr. Yenchit Tongsonbun			○	○	○	○
Dr. Phaibul Sa-ngobwachar	R・I・部長		○	○	○	○
Dr. Chuladej Yossuntharakul	外科医			○		
Dr. Pratuang Angkeow	放射線科医					
Mr. Permsak Charbthanom	事務長		○	○	○	○
Dr. Sathaporn Leelananthakit	麻酔科医					
Dr. Nalinpan Kangsunit	化学療法部長					
Dr. Littee Chommaitri	病理検査科医					
Mrs. Prakong Rungkdsiri	秘書長				○	○

6　協議内容

(1)　プロジェクトのレビュー

a　診断部門及び治療部門（放射線治療、化学療法並びに小外科）の成果の確認

b　治療部門とくに患者収容不能の確認及び早期開院の督促

(2)　将来計画

a　タイ側から協力期間の延長要請

b　タイ側が早期開院に向ってベストを尽くすことを条件として日本側は１９７５年４月１日から２年間延長を了承

注　短期間にわれわれが接触した範囲内では危惧した対日感情のもつれは感じられず友好裡に折衝が進められた。

またＮＣＩ病院のスタッフの間に早期開院意欲が盛り上ってきており、Dr. Somchai は２００床構想のうち３０床の収容開始を本年６月と公言している。しかも、このプロジェクトにＤＴＥＣが積極的に関与し始め、R.D. の調印にも加わったことは、近い将来に明るい見通しができたといえるであろう。

ただ、エレベーターが未だ整備されていない点などから考えると、治療部門の機能開始（入院患者を３０人収容すること）が、６月に行われるためには、かなりの努力が必要と考えられる。

c　治療部門の活動に対する協力

開院の前後の時期に重点を置くことが適切である。

d　必要が生じた場合随時専門家の短期派遣

(3)　１９７４年度の計画

早期開院に重点を置く。

a　タイ側

早期開院に全力を尽くすこと。そのために必要な予算及び人員を確保する。

b　日本側

(a)　専門家の派遣は原則として開院後とするが、Coordinator と放射線技師は継続して貰いたい旨の要望があった。

(b)　研修員の受入れ

(c)　機材の供与

タイ側の要望する機供につき、日本側が東京で検討して査定する。

タイ側は機材の修理が現地では簡単にできずしばしば診療に支障を来たしている実情を訴え機材の修理、オーバーホール、更新等につき、R.D. に明記するよう強要したが、ＯＴＣＡとしては運用面で実情に添うよう最大限の努力をするということで、R.D. には記さないこととなった。この点は今後のプロジェクトの成否のかぎになると考えられるので、現地からＯＴＣＡへの情報ルートを次のように再確認し業務に支障を来たさないようにすることとした。

NCI内→事務長→Coordinator→OTCA
↘NCC(写)

(4) そ の 他

個別協議の内容等については、それぞれ団のスタッフから報告する。

7 参考事項

(1) NCIの組織及び定員　別紙

管理部門		57
技計8、衛生教育7、を含む		
研修部門		0
研究部門		1
臨床部門		92
早期ガン検査	27	
臨床検査	32	
治療研究	12	
看　護	21	
計		150
注、予算要求人員		214
現員		129

別紙添付

(2) 1974年度予算

施設整備費	5.360.000パーツ
そ の 他	5.049.400パーツ
計	10.409.400パーツ

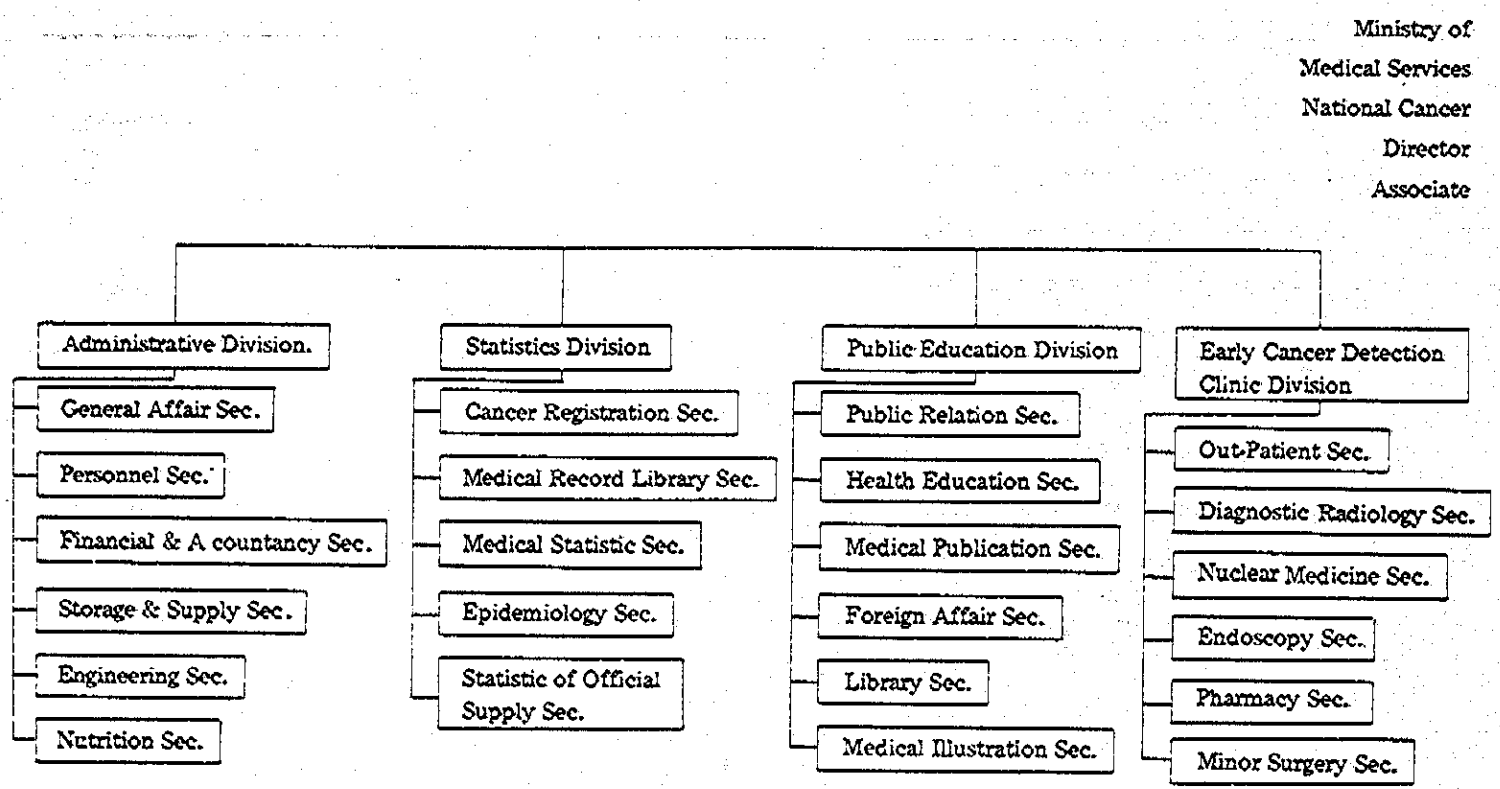
注、1パーツは約15円相当

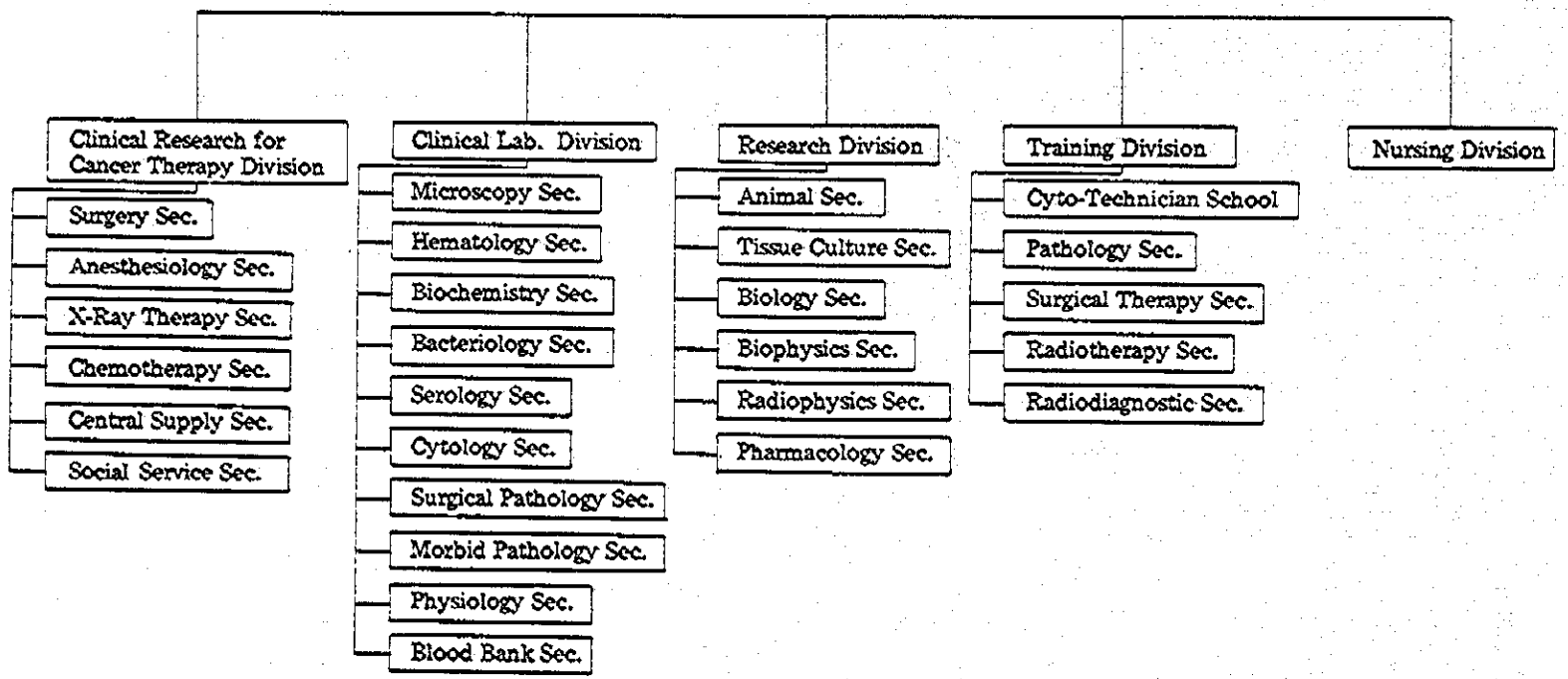
(3) NCIの活動状況　1973年　別紙

後 藤　調

The Staff of the National Cancer Institute

Positions	Assigned	Vacancy	Total	Remarks
Doctor	19	6	25	
Pharmacist	2	—	2	
Dentist	1	—	1	
Technician	19	4	23	Including—X-ray Technician —Lab. Technician
Assistant Technician	14	3	17	Including—X-ray Assistant Technician —Lab. Assistant Technician
Nurse	9	21	30	
Assistant Nurse	9	28	37	
Others	30	—	30	Administrator, Statistician, Nutritionist, Medical Social Worker, Medical Photographer, Electric Engineer, Typist, Clerk etc.
Employer	26	23	49	Drivers and workers
	129	85	214	


Ministry of
Medical Services
National Cancer
Director
Associate
Administrative Division.
General Affair Sec.
Personnel Sec.
Financial & A countancy Sec.
Storage & Supply Sec.
Engineering Sec.
Nutrition Sec.
Statistics Division
Cancer Registration Sec.
Medical Record Library Sec.
Medical Statistic Sec.
Epidemiology Sec.
Statistic of Official Supply Sec.
Public Education Division
Public Relation Sec.
Health Education Sec.
Medical Publication Sec.
Foreign Affair Sec.
Library Sec.
Medical Illustration Sec.
Early Cancer Detection Clinic Division
Out-Patient Sec.
Diagnostic Radiology Sec.
Nuclear Medicine Sec.
Endoscopy Sec.
Pharmacy Sec.
Minor Surgery Sec.


Clinical Research for Cancer Therapy Division
Surgery Sec.
Anesthesiology Sec.
X-Ray Therapy Sec.
Chemotherapy Sec.
Central Supply Sec.
Social Service Sec.
Clinical Lab. Division
Microscopy Sec.
Hematology Sec.
Biochemistry Sec.
Bacteriology Sec.
Serology Sec.
Cytology Sec.
Surgical Pathology Sec.
Morbid Pathology Sec.
Physiology Sec.
Blood Bank Sec.
Research Division
Animal Sec.
Tissue Culture Sec.
Biology Sec.
Biophysics Sec.
Radiophysics Sec.
Pharmacology Sec.
Training Division
Cyto-Technician School
Pathology Sec.
Surgical Therapy Sec.
Radiotherapy Sec.
Radiodiagnostic Sec.
Nursing Division

２月１５日現在

Dr. ～２０名

Pharmasian　～　２名

Nurse　～２７名

Administrain　～３０名

＋ Worker　～１２名

Technicain　～３３名

合　計　１２４名

◎ 管理部門　Administratire division （４２名）～合　計

General affair section （庶　務）（２４名）

Financial and accountancy section （会　計）（６名）

Storage and Supply section （補　給）（８名）

Engineering section （技　術）（２名）

Nutrition section （栄　養）（２名）

◎ Satistics division（統　計）（８名）～合　計

◎ public Education division 公衆衛生活動 （７名）～合　計

public Relation Section 公衆関係 （２名）

Library section 図書館 （２名）

Medical illustration Section 医学図解 （２名）

◎ Early Cancer detection 診断部門
Clinic Division （早期がん発見及び臨床）（２７名）～合　計

Out-patient Section 外　来 （５名）

Diagnostic Radiology section 放射線診断 （１４名）

Nuclear Medicine section 核医学 （３名）

Endoscopy Section 内視鏡 （１名）

Pharmacy Section 薬 局 （４名）

◎ Clinical Research for Cancer Therapy Division（がん治療部門）～１２名
Surgery Section 外 科 （５名）

Anesthesiology section 麻 酔 （１名）

X-ray Therapy Section X線治療 （３名）

Chemotherapy section 化学療法 （１名）

Soeial Service section 社会福祉 臨床検査 （２名）

◎ Clinical laboratory Section （５名） ～合計３２名

Microscopy Section 顕微鏡 （２名）

Hematology Section 血液学 （６名）

Biochemistry Section 生化学 （３名）

Bacterioloty Section 細菌学 （２名）

cytology section 細胞学 （６名）

Surgical pathology section 外科病理

Morbid pathology Section 解剖病理 （４名）

Physiology Section 生理学 （３名）

Blood Bank Section 血液銀行

◎ Research Diviseion 研究部門 （１名）

Animal Section 動 物
Tissue-culture Section 組織培養
Biology Section 生物学
Biophysics section 生物物理学
Radiophysics Section 放射線物理
Pharmacology Section 薬理学

◎ Training Division 研修部門
Cyto-Technician School 細胞技師学校
Pathology Section 病 理
Surgical Therapy Section 外科治療
Radiotherapy Section 放射線治療
Radiodiagnostic Section 放射線診断

◎ Nursing Division 看護婦部門 （２１名）

The Budget Allocation to the National Cancer Institute Project
for Fiscal Year 1974(From October 1973-September 1974)

Year	Salary	Permanent Wages	Extra Payment for Staffs	Expenditures	Supplies	Equipment	Land and Construction	Subsidy	Total	Remarks
1974	2,703,500	359,100	20,000	340,000	930,000	650,000	(5,360,000)	46,800	5,049,400 (10,409,400)	
Total	2,703,500	359,100	20,000	340,000	930,000	650,000	—	46,800	5,049,400 (10,409,400)	

1974. Feb. 8

Month	Out-Patient			Out-Patient Endoscopy	Out-Patient Pathology	Out-Patient X-ray Radiology	Out-Patient Radio-therapy	Remarks
	Male	Female	Total					
Jan. 1973	80	241	321	2	74	573	145	
Feb. 1973	77	257	334	2	79	481	92	
Mar. 1973	100	314	414	2	132	561	106	
Apr. 1973	90	343	433	—	113	660	159	
May. 1973	122	401	523	3	119	658	131	
June. 1973	105	384	489	3	89	613	126	
July. 1973	108	327	435	2	96	607	284	
Aug. 1973	139	374	513	1	187	731	283	
Sept. 1973	109	330	439	4	123	654	338	
Oct. 1973	100	327	427	4	118	378	232	
Nov. 1973	104	347	451	—	93	417	167	
Dec. 1973	100	309	409	2	71	520	154	
Total	1,234	3,954	5,188	25	1,285	6,853	2,217	

3. 団 員 報 告

伊 藤 一 二

タイ国National Cancer Institute（NCI）に対する医療協力Projectの1973年日本会計年度の年次協議のため1974年2月18日より2月27日迄Bangkokに出張したので、その会議の経過の概略を報告すると共にいささかの私見を述べる。Missionの団員は林運営部長を団長とし国立がんセンターより北川部長、伊藤更に現地で小山医長が参加し、それにOTCAの石崎氏を加えた5名である。

1. 今回の調査団の目的

今回の調査団の目的は出発前に外務省、OTCA、NCC三者で協議した如く予期せぬ事情で大巾に遅延しているNCIの治療棟病棟建築の現状をつぶさに調査し今後の援助のあり方を検討すること及び当初の5年計画を更に3年延長して本Projectが1975年3月で終了するが、その期間中には到底NCIの機能が完全に運営出来ないため、更に2年間、本Projectを延長する事を両国間で協議決定する事であり、援助の詳細に関しては余りTouch しないと言うのが骨子である。

2. タイ国の現状と印象

私、個人としては短期間づつであるが、5回目の訪タイであり、年毎に変化する状態が観察された。近年、我が国の経済進出に対しタイ側で対日感情が悪化し、田中首相訪タイ時の学生を中心としたデモストレーション等が行われた事は、承知の事であるが、私が見た範囲では全くその様な印象はなく、以前に増してタイの人々は我々に個人的には友好的である様に感じられた。特にその事は町を歩いた際、又ホテル等で一般のタイ人が非常に親しげに話しかけ、親切にしてくれた事が印象的であった。ただ以前にも いささか不快に感じていた日本企業の大きな目立つ広告がなくなった事は、日本にとっても好ましい事であろう。ただ在タイ邦人の話では、日本人に対するWorking Permit は殆んど出ず現在居るStaffの交代が殆んど不可能なので何時迄ここに居なければならないのか、わからないという不安が深い事、又タイ人でも出来る職業例えば美容院の経営等は日本には許可されないそうで、その点、目に見えない所で厳しくなっている様である。

3. NCIの活動状況と病院建築の進捗状況

NCIの予算、人員等の詳細に関しては、林部長より報告があるので省略する。外来患者の数は大体1日40名程度で、そう増加しているとは思われないが、全般として動きが活発になった感があり、RI検査等は毎日2～3名と件数が増加しており、又細胞診のSectionでは検査技師の研修を行っていた。又X－線診断では外部よりの依頼患者が増している様である。治療面では放射線治療の患者も増し、月曜日には十数人の患者に対しDr. Ankyoが治療計画を立てて

いた。尚、Dr.NalinphanはNCCでの研修を生かし、タイ国唯一のChemotherapist として外来治療を行っている。
病院建築については7階迄のBuildingの内装、外装は、ほぼ完成しており、例えば手術場では照明灯、酸素、笑気、吸引、airの配管も出来ている。しかし水道その他SourceよりのConnectは完成していない様である。又、中村Kitchen、解剖室等の機材の据付は未完でDr.Somchai以下Staff全員は30床の入院患者を6月当初より開始すると、はり切っているが以上の設備の未完成の点がやや気にかかる。しかし30床Bet Bet-side-table等は既に購入済みであった。

4. NCIの組織機構

NCI内部の組織機構には変化はないが、診療面に関しては、従来の診断部門をEarly Cancer Detection Clinic (Dr. Pisit) Clinical Laboratoy Dep. (Dr.Sivalai)。病棟に、手術、放射線治療化療を含めた部門をClinical Research For Cancer Thecapy Division (Dr.Manop)と3つに分れている。
即ち新しい建物の代名詞は決してHospitalとは言わず必ずClinical Research For Cancer Therapy Division と称するのでこの点今後の専門家は留意して頂きたい。NCIに関する上部機構は前回に報告した如く、Ministry of Public Health の内のDept. of Medicae and Health Servicesに属しているが現在、次官のDr. Komolは殆んど実際にはTouchしておらずDept. of Medical and Health Servicesの中に次長が3人居りその内のDr. Kohnの担当である様である。しかし現在は殆んどDr. Somchaiが任されてやっており、R・D作製も殆んどDr. Somchaiが行っていた。ただ以前と違うのはこのProjectにDTECが大いに関与して来たことで、今回も最初DTECで次官のMr. Apitas の所でまず会議が行われDTECが更に2年延長の必要を認めた後、始めて年次協議に入った様な次第で、従ってその後のGeneral Meetingには必ずDTECが出席して意見を述べ又、RDにもSignをした次第である。

5. 現地日本側の協力態勢

今回、痛感した事は以前に増して現地大使館、OTCAの本Projectに対し強い御協力が得られた事で、OTCAでは桑原所長以下特に熊岸氏は毎日会議に出席して頂き、又大使館では大筋に対しては天羽公使、詳細な部門に亙っては薗崎一等書記官に非常な御援助を頂きRDの作製は殆んど薗崎書記官に作製して頂いた様なものであった。この様に、B、タイ両国政府の本Projectに対する積極的な且、強力なback up を目の当りに見て実際上の担当者としてのNCCの責任を痛感した。

6. 会議の経過

まず最初NCIを入れず日本側(大使館,OTCA,調査団)とDTECの間でGeneal

Meetirgを行いDTECより2年延長した後、独自でNCIが運営可能かどうか等迄、相当、突っ込んだ質問迄あり、一応2年延長の線を出し、その後数回に亘りタイ公衆衛生局 DTEC 日本大使館、OTCA、NCI、NCC全員でGeneral Meetingを行いお互いの意見を率直に出し合いRDの作製を行った。一方、個別協議としては、林団長、石崎、後藤Co-ordina-torとNCIのMr. Permsackその他の間で事務局、営繕関係、Public education Statistic Division の関係につき、北川部長がDr. Pisit, Dr. Ankyo Dr. Phailullとの間で放射線診断、治療、RI、Liver Cancer Projectに関し、伊藤、小山がDr. Manop Dr. Chulladej Dr. Sathaporn Dr. Sivalai Dr. Nalimphum Dr. penkaiとで外科部門、臨床検査部門、化学療法部門についてそれぞれ協議し一応NCIの request を聞き日本に持ち帰る事にした。会議の内容の詳細については後述するが今回の一大収穫はレントゲン治療医師の問題で第一日目にDr. SomchaiにRadiotherapistが当NCIに最も重要なDoctorであり大きな器械のMaintenance その他に対するTrouble の原因もRadiotherapistがいない事も一大原因であり、日本より専門家を送っても意味がないと強行に申し込んだ所、翌日放射線の個別会議で北川部長にDr. Pisitより、現在週一回来ているWomen's hospital のDr. AnkyoがNCIに移る事、もう一人現在シラー大学で研修中の若いdoctor が来る由、返答がありこの問題は一度に解決した。

7. Record of Discussion について

今回のmission の最大の課題であるRecord of Discussion(RD)についてはその原案を日本で作製し持参、それを中心に会議が進められた。
その詳細は団長報告に譲るが大きなpoint は、本project 2年延長の問題、Promoter system を作り手続きを簡単に短期派遣者を出す問題の2つであった。これらを中心にdiscuss したが原案より修正された所は Review の所に更に詳しくNCIのactivity を入れる事、Future plan で2年延長は双方合意したが、日本側は初め入院治療活動が開始してから2年と考えていたがこれは実際上、技術的に不可能な事であるので、はっきり1975年より2年とした事、更にpromoter system はgood idea であるが、DTECは短期ならばA, form の手続きなしに派遣受入れ可能だと述べたのでその様なくわしい文章は省略し文面は必要の生じた時、すぐ短期専門家を派遣すると言う様に簡単にし手続上に双方の了解事項としてNCCよりの Letterでもって日本側は処理する事となった。その他DTECはAnnex Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ に出ているもの、その他detail に関しては後で両国間で定めると言う文章を入れる様言って来たがその様な内容の所が各所にあり重複するのでそれは削りFuture Plan の3の中に、Annex Ⅰ.Ⅱ.Ⅲは合議の上でまとめるという文章のみを挿入する事とした。尚タイ側・日本側共に現状で最も必要な器材の修理、更新Overhaul の問題は再三doctor側より提案されたがOTCAとしてはこの件に関しては明記すると本project の主旨に反するので文面に入れる事は出来ないが出来るだけその点に努力すると言う事で落着いた。ただタイ側

が支払うとしても日本製品の部品を手に入れるのに非常な困難があるとの事でこの点に関しては情報 route をはっきりさせOTCAの仲介のもとに行う事とする様話し合った。尚、Expert の派遣についてはDTECのMrs Nongnath は1年に96人月分の予算あり即ち12ヶ月の人で8人、6ヶ月の人であれば16人可能との事であった。又OTCAにFellow ship 8人受入れ可能との事でその線に沿って1974年度分に調整しAvnex I.II とした。

8. 個別協議（外科、化学療法、臨床検査を中心に）

私の担当する individual meeting は2月20日Dr.Manop Dr.Sivalai, Dr.Pevkae Dr.Chullade j, Dr.Salhaporn, Dr.Nalimphum.伊藤、小山で行った。

a）機材供用について

外科器材については一昨年作製したタイ側の要求リストとNCCがOTCAに要求した list とタイに既に到着しているList との三者を照し合せた所、1971年1972年度分は要求 List 通りのものが既に到着しているので全部OK、1973年度分は歯科の器機を入れ28品目 list up されているが現在OTCAより送る予定のものはその内16品目のみであるので残り12品目は1973年以後とする事、それに加えて頭頸部、婦人科の器械を中心に14品目要求したので、計26品目を新しく要求して来た型となった。

化学療法部門では制癌剤の他に bone marrow biopsy act を要求した。尚今迄に治療した化療患者17名のList をもらった。

臨床検査関係では1972年度分はAutotechniconと血液の refrigerator 以外は全部到着、1973年以後では前回の request Listと日本側の解釈がくい違っていて56品目の要求に対し1973年に送る予定が6品目のみであるので今回全部要求のやり直しをしてもらった。その他、やはり英語の説明書を是非つける事、又制癌剤には英語の使用書をつけて欲しい事を要求され又Dr.Sivalai より部品の故障の際、早く部品を送って欲しいと言われ小さな物であれば携行器材で行けるので一応分光光度計のランプを持帰った。

b）Fellow shipについて

一応各部門の研修派遣者の年次毎のList をもらった病理についてはDr.Itee を出産後、派遣する由との事、又Oral prothesis（成形外科医）の研修を望んでいた。

c）専門家派遣

外科としては外科医（一般外科、胸部、頭頸部、婦人科）1. 麻酔医1 Nurst 1 のgroup 編成で常勤して欲しいとの要求でありChemotherapy の doctor と病理のdoctor ・technician の派遣を望んでいる。尚専門家派遣は特に入院開始後長期間を希望しており我々も個人的な意見としてはその方が Betterと思われるが事実ウイルス研等と違い臨床の場合は大変困難な問題でありこの点NCC内での調整を要する問題である。

9 NCIの基礎的研究について

NCI旧館の増築された4.5階を見学したが4階はNCCの8号棟より広い研究室で、5階は動物小屋となっておりNCIでも臨床と同時に臨床的研究を行おうという意欲が伺える。事実

Dr．Phaibul はLiver Cancer Projectとして北タイに肝硬変、肝癌が多い事はアルコール飲料に関係すると思われるのでマウスで発癌実験をやりたいと提案し、事実その機材を要求して来た。これは大変結構ではあるが本Project に研究面のものはinclude されていないのでこの点に関しDr．Somchai に質した所、これは現状では肝癌 project に限ると答えたが将来必ずこの問題が再燃してくるものと思われる。

10 現地専門家の意見

現地専門家は現在駐在する小山、後藤専門家を含め熱心に尽力されておりタイ側より大いに感謝されている事は再三Dr．Somchai より礼を言われ喜ばしい事であるが、専門家の意見を私なりに代弁するとやはり暑い国で外地で働いているものの実状を日本内地でもう少しよく理解して欲しいという事は我々が短期に出張しても切実に感ずる事である。その他専門家を派遣させる際は日本で充分にタイ国に関するOrientationをしてから派遣してほしいという意見ももっともなことである。尚現地業務費について大分苦労している様であり、この点については日本側でよく協議すべきと思う。

11 まとめ

以上大体今回の調査団として私の報告及び意見を述べたが、要するに本Project 長期間となりその間いろいろ問題もあったが、やっと入院治療開始にこぎつけた時期でもあり、タイ側のStaff の態度も大変積極的になって来ており、日本側としてもここで誠意をもって本Projectに協力すべきであり、そのことにより、この日、タイ両国間の最大の医療協力Project が必ず成功裡に完了すると確信する次第である。

北 川 俊 夫

1. 廻転横断撮影装置

東芝1.5型と決定、部屋の改造は不可能（特に下面の深さの変更は不可能によりDr．フィジットの意向により1.5型とす、但し設置時の細部改造に関しては、Dr．フィジット了解、現地東芝、後藤の協議により完成させる事となった。

2. 各機器（放射線関係以外のものを含む）の必要部品を該Project 継続期間中は、日本側にて購入し、現地に予備として置く事をタイ側より要請さる。（Dr．ソムチャイ）

その理由は、必要時に日本に向けて Order しても到着に数ケ月を要し、現業に重大なる支障があり、又それ等部品の総べて（殆んど）のものは現地では入手困難である。

又、日本国内における放射線機器の進歩により製作状態の関係より、しばしば入手困難の事も経験されたのでタイ側はかかる事態も考慮に入れて上記の要請となったものである。

必要部品にしてタイ側で購入する場合は、各タイ側担当者→Mr．Permsak →日本側Coordinator→OTCA（Bangkok）→OTCA（東京）→業者

＼NCC（企画室）→各担当者＋Dr．伊藤の経路により円滑且つ速かに入手出来る様、努力する事を再確認す（Dr．ソムチャイ、林、伊藤、北川、石崎）

3. リニアックの2マグネトロン（スペアパーツ）

上記マグネトロンは協定の上、日本に持帰り、NECにて保管し、必要に応じて渡タイの上、取り変える。

上記課題に関しては、Dr.ソムチャト、現地OTCAに託し了解。今後両者にて協議される事となる。

4. 工具を含む機具の保管

現在上記保管の責任は Mr.Chitt にあり、現在迄、既に見当らなくなったものもある事を北川よりDr.フィジットに話し、Dr.フィジットはMr.Chitt に注意する事を約す。

5. リニアックモニター

盗難された上記モニターは既にOTCAにより新らたに購入され、間もなく現地に到着する事を伝達。

6. リニアック保守資料

上記データーを定期的に日本に送りNECの関係者がこれを検討するシステムをつくる事をDr.フィジット了解、かかるシステムによりリニアック保守の技術的指導をNECが直接行い得る。

このData は Coordinator に渡され、OTCAを通じNECに渡される事となる。

7. 空調、水供給装置

リニアックに部分的に附随せる空調、水軟化装置の保守に関しては、従来NECを通じて行われて来たのに対し、今後（保証期限が終了した）、タイ側より各担当会社（オルガノ、ダイキン）に直接連絡すべき件については、タイ側（Dr.フィジット）は、良く理解し、今後上記手段を用いる事を約した。

8. 深部治療機

上記装置は、Dr. Angkaew の切なる要望にして、これを設置する場合、照射室が狭小に過ぎる事を考慮に入れ、操作盤は隣室の工作室に入れて接続し、鉛ガラス窓にて監視し、トランス及び冷却装置は裏の部屋に入れる事にし、そのスペースに関する考慮はDr.フィジットが約した。

9. リニアック

開院後放射線治療専属医師に予定されているDr. Angkaew及びDr.Phisit の要望として当センターがタイにおける名実共に一位を示す癌病院であるために18～15MeV のリニアックを更に一台の設置を要請される。

かかるリニアック設置に基づく年額約100万円の保守費は開設後はタイ側で可能とする見込み

ありと言う。

10 コバルト線源

既設置コバルト照射装置線源の減衰に供うこれの入れ変えは、比較的安価であるオーストラリアに運ぶ手段は検討上不可能である事が判明、現在における判断では東京に運ばざるを得ない。この問題に関しては追って東芝側と検討する。

11. 機器修理、部品の補充

上記の手順が現在迄円滑を欠いていたが、今後この手順、経路を明確にする必要があると思われる。

12. オーバーホール

別表数種の装置のオーバーホール、部分的更新等に関して、タイ側より切に要望あり。

13. X-ray Diagnosis Division よりカセッテ増感紙の破損による補充を要請さる。

別表

14. 病院見取図

現在NCIには尚完成された青写真なきため、今後可及的速かにこれを修正する事をDr.伊藤よりDr.ソムチャイに依頼。

同時に日本側も放射線技師が後藤氏と協力して作製する事にした。

15. 放射線治療部における医師

現在週1回来院しているDr.Angkaewは、開院と同時に当センター専属に変更の予定(ほぼ確実)又本年試験を受けた新しい医師Dr.Kijchaは、1974年3月より今後1年経過後日本へ6ヶ月の研修に送られる。

16. 日本放射線技師の派遣

タイ側(Dr.ツィジット、Mr Chitt等)の要請により2人(6ヶ月づつ)1年を少くとも本Project 終了時点迄は継続する事となった。

但し上記技師に関しては、従来の放射線技術専門家と同時に電気関係技術専門家を兼ねる事とする。以上OTCA・Superviser 了解。

以上の件は、変化しつつあるタイがんセンター内部人員の我邦専門家に対する考え方に対応し、円滑な業務遂行を期したものである。

尚放射線治療技師に関しては、タイ側のCounterpartはMr.Chalewであり、円滑な接触等対人関係において想定せられる問題に関しては、Dr.ツィジット、Dr. Angkaewが注意して

対処する事となった。
かかる問題に関しては，Dr ウィジットが既により知り且つ理解している。

17. 放射線治療医の派遣

タイ側としては、少くとも1、2名の日本人医師による年1、2ヶ月間の現地指導を要求せるも、日本側としてはがんセンターの現状より考慮して、多くとも2名／年、3ヶ月間の各治療医の派遣について考慮する旨解答し、今後各時点の状況に応じてこの範囲内にて判断されるべき事を相方が同意した。

18. Dr.Angkaew の研修

上記医師がFellowship として渡日中、タイがんセンターにおける放射線治療業務は、他施設医師により続行されるべきであり、その線に沿ってタイ側は努力する事を約した。
尚上記医師の派遣（渡日）時期は、先に渡日せる放射線治療技師と日本滞在期間が一致すべく調整する事をタイ側より要請され、又OTCAも了解した。

19. 要　請

現在の状態では必ずしも必要とは考えない。但しシンチカメラが設置された時点においては、この業務に関する専門医師の派遣は必要であり、上記要請が附加される事になる。

Liver Cancer Project

1. 1973年12月現在迄に630例の症例について研究が行われた。
又1973年6月12日迄の569例（Control）に関する検査資料がDr.Phibun より提出さる。

2. 1974年秋頃より新らたに、このProject に基礎研究をClinical experiment として加えたき要望あり、Dr.伊藤がDr.ソムチャイに「基礎研究はこのProject に限り拡大解釈はせず」なる事を確認す。
上記は、アルコールによる肝発癌の研究を行うものにしてそのための人員も既に予定されているとの事である。
Dr.パイブーンは上記研究を進めるために次の如く考えている。
先づ Experimental animal Division と
Biology Division（include Biochemistry + Radiobiology）
次いで Tissue culture,Radioplusic Division の設置を考え、これに要する機具の供与及び Expert の派遣を要請す。（別表）

3. 以上の件は北川が帰国後 Dr.服部にこれを報告し、同時にDr.バイブーンも Dr.服部と直接手紙で接触し、今後の方針を定める事とした。

The Record of Discussion

for

The National Cancer Institute Project in Thailand

Preamble

The Japanese Consultation Mission organized by the Overseas Technical Cooperation Agency, which is entrusted by the Government of Japan with the execution of its overseas technical cooperation schemes, and headed by Dr. Hiroshi HAYASHI, Director of Administration Department, National Cancer Center, Tokyo, Japan, visited Thailand from 18 February to 27 February, 1974 and discussed with the Thai Authorities concerned about the future cooperation plan of the project while being engaged in reviewing the past performance of the cooperation.

It is noted with satisfaction that both parties exchanged creative opinions quite frankly and the meeting has been proceeded always in friendly as well as enthusiastic atmosphere.

At the meeting, the Thai side expressed the gratitude for the Japanese cooperation extended so far and the Japanese Mission expressed its thanks for the hospitalities shown by the Thai side during their stay in Bangkok.

The Japanese Mission also paid its respect to the Thai Authorities concerned for their strenuous efforts to develope the project effectively conquoring difficult problems occurred in the stage of construction of the building for clinical research for cancer therapy.

The participants were pleased to note that the meeting was quite fruitful and successful and achieved the objectives.

Recorded hereunder in three separate parts are the review and exchange of opinions concerning the future cooperation plan of the project.

I. Review of the activities of the project

1. Since the cooperation to the National Cancer Institute for setting up the Early Cancer Detection Clinic was started in 1968, it is gratifying to note that the services of the clinic have been increased rapidly.

2. Among the activities in the Clinical Research for Cancer Therapy Division, functions such as Radiation Therapy, Chemotherapy and Minor Surgery have been started. However, inpatient services have not yet been implemented because of the delay of the construction of the new building due to the unexpected troubles.

It was noted however that both parties were happy to see the building construction nearing completion.

II. Future plan

1. Judging from the fact that two-thirds of the whole cooperation period in the Second Three Year Programme of National Cancer Institute has elapsed, while new building construction is still left incomplete, both parties acknowledged that it was virtually impossible to carry out the original plan of the project within the remaining period.

2. From this viewpoint, the Japanese Mission accepted the Thai side's request of extending the current cooperation period for two years starting from April 1, 1975 to March 31, 1977 in the form of dispatching experts, granting fellowships and providing equipment.

The Japanese Mission requested the Thai side to do their best for the earliest possible commencement of the activities for inpatient services and it was stated by the Thai side that they would make every possible effort to do so.

3. It was confirmed by both parties that the outline of the cooperation programme would be worked out through mutual consultations in advance each year. However, the estimated detailed programme provided under Annex 1, II and III should be fixed with due consideration of the actual progress at the National Cancer Institute so that the cooperation should be executed timely and effectively. This is specially so in the stage of pre-opening and post-opening of the Clinical Research for Cancer Therapy.

4. It was agreed by both parties that Japanese experts would be dispatched to consult with the Thai Authorities concerned and settle a problem on the spot whenever the need arises.

5. It was confirmed that the Thai side would provide the necessary equipment other than that supplied by the Japanese Government and cover the maintenance cost of the equipment.

6. Both parties agreed to have close exchange of informations in future in order to carry out the project effectively.

III. Cooperation plan in 1974 (Japanese fiscal year)

It was agreed by both parties that the main emphasis of the cooperation plan in 1974 would be put on the opening of the Clinical Research for Cancer Therapy Division.

1. Thai side

It was confirmed that the Thai side would do their best to complete the new building construction and secure budget and obtain the necessary number of personnel in order to make the functions in Cancer Therapy Division fully operative.

2. Japanese side

1) Dispatch of expert

It was agreed in principle by both parties that the experts would be dispatched after the activities for the inpatient services were actually started. (See Annex I)

2) Acceptance of Thai personnel for training

Upon request of the Thai Government, the Japanese side is prepared to provide fellowships to Thai personnel for training at National Cancer Center, Tokyo, Japan. (See Annex II)

3) Provision of equipment

Both parties discussed and studied the request lists of equipment supply in 1974 (Japanese fiscal year) submitted by the Thai side. The lists will be further studied by the Japanese side. (See Annex III)

The Japanese Mission and the Thai Authorities concerned have reached the understanding that they recommend to their respective Governments the adoption of necessary measures to implement the above-mentioned programme.

Bangkok, February 26, 1974.

Hiroshi Hayashi

Dr. Hiroshi Hayashi
Director,
Administration Department,
National Cancer Center, Tokyo, Japan,
Head of the Japanese
Consultation Mission.

K. Suwanarat

Dr. Kong Suwarnarat
Deputy Director-General,
Department of Medical and
Health Services,
Bangkok, Thailand.

Mr. Apilas Osatananda
Deputy Director-General,
Department of Technical and
Economic Cooperation,
Bangkok, Thailand.

Annex I

Dispatch of Experts

Field of Experts	1974		1975		1976		Remark
	No. of experts	Duration M.	No. of experts	Duration M.	No. of experts	Duration M.	
Administration Division							
Co-ordinator	1	12	1	12	1	12	
Early Cancer Detection Clinic							
Diagnostic Radiology Section							
Radiologist			1	3	1	3	
Nuclear Medicine Section							
Radio-isotope technician			1	6	1	6	
Expert for Liver Cancer			1	3			
Clinical Research for Cancer							
Therapy Division							
Surgery Section							
Surgeon (general surgeon, chest, head and neck, gynecologist	3	9	2	6	2	6	
Anesthesiologist	3	9	2	6	2	6	
Surgical nurse	3	9	2	6	2	6	
Radiation Therapy Section							
Radiotherapist	2	6	2	6	2	6	
Technician	2	12	2	12	2	12	
Chemotherapy Section							
Chemotherapist	1	6	1	6	-	-	

Field of experts	1974		1975		1976		Remark
	No. of experts	Duration M.	No. of experts	Duration M.	No. of experts	Duration M.	
Clinical Laboratory Division							
Cytology Section							
Cytologist	1	3					
Cyto-technician	1	3					
Surgical Pathology Section							
Pathologist	1	3					
Histotechnician	1	3					
Total	19	75	15	66	13	57	

Annex II

Provision of Fellowships

Field of Fellowship	Priority	1974		1975		1976		Remark
		No.of Fellow	Duration M.	No.of Fellow	Duration M.	No.of Fellow	Duration M.	
Public Education Division								
Library Section								
Librarian		-	-	1	3	-	-	
Medical Illustration Section								
Medical Illustration		1	3	-	-	-	-	
Statistic Division								
Cancer epidemiology and statistics		1	6	-	-	-	-	
Early Cancer Detection Clinic Division								
Diagnostic Radiology Section								
Technician (4 yrs)		-	-	-	-	1	6	
Technician (2 yrs)		1	6	1	6	-	-	
Nuclear Medicine Section								
Technician (2 yrs)		-	-	1	6	-	-	
Clinical Research for Cancer Therapy Div. Surgery section								
Oral Prothesis (Dentist)		-	-	1	6	-	-	
Surgeon		1	1	-	-	1	2	
Surgical Nurse		1	6	1	6	1	6	

Field of Fellowship	Priority	1974		1975		1976		Remark
		No. of Fellow	Duration M.	No.of Fellow	Duration M.	No.of Fellow	Duration M.	
Radiation Therapy Section								
Radiotherapist		1	3	1	6	-	-	
Technician (4 yrs)		1	6	-	-	1	6	
Technician (2 yrs)		-	-	-	-	1	6	
Physicist		-	-	1	6	-	-	
Nurse		-	-	-	-	1	6	
Clinical Lab.Division								
Microscopy Section								
Microscopy technician		-	-	1	3	-	-	
Hematology Section								
Hematology technician		-	-	-	-	1	6	
Biochemistry Section								
Biochemistry technician		-	-	-	-	1	6	
Bacteriology Section								
Bacteriology technician		1	6	-	-	-	-	
Cytology Section								
Cytology technician		-	-	-	-	1	6	
Surgical Pathology								
Pathologist		-	-	1	2	-	-	
Physiology Section								
Physiology technician		-	-	1	3	-	-	
Blood Bank Section								
Blood Bank technician		-	-	-	-	1	3	
Total		8	37	10	47	10	53	

Annex III

Provision of Equipment

Administration Division

Engineering Section

	Description of Equipment	Quantity	Remark
1	Air Conditioner service set	1 set	
2	Complete tool sets for use on inch and centimetres	1 set	
3	Tube cutting and Flaring tools	1 set	
4	Tool chest, Drawer section and Roll cab combination	1 set	
5	Welding machine (Electric-Welding)	1 set	
6	R.P.M. meter	1 set	
7	Gas welding	1 set	

Public Education Division

Medical Illustration Section

	Description of Equipment	Quantity	Remark.
1	Electronic Stencil Cutting machine (Cema FAX 750), SAKATA SHOKAI, Ltd.	1 set	
2	Nikon F. Camera	1 set	
3	48000 F.C. Autoprint washer Model P.W. 40	1 set	
4	Studio light set (F.C.)		
5	99225 Professional tripod for view camera. (F.C. 28 Hamazakicho, Kitaku, Osaka, Japan C.P.O. Box 213)	1 set	
6	Zoo, Auto lenses 85 mm/290 mm. F./4	1 set	
7	Micro Nikon Auto 55 mm F./3.5	1 set	
8	Wide Angle 28 mm / 3.5	1 set	
9	Hitachi Dehumidifier model HD-2003	1 set	
10	Movie Projector (Sound Projector Magnetic Optical)	1 set	
11	Slide Projector 16 m/m	2 sets	
12	Yashica (Twin lens) (Use film No. 120 mm or 3")	1 set	

Early Cancer Detection Clinic Division

Diagnostic Radiology Section

	Description of Equipment	Quantity	Remark
1	300 Ma mobile X-ray unit	1 set	
2	X-ray grid 8:1, 100 cms focus distance size 10"/12"	1 set	
3	X-ray grid 8:1, 100 cms. focus distance size 11"/14"	1 set	
4	X-ray grid 8:1, 100 cms. focus distance size 12"/15"	1 set	
5	X-ray grid 8:1, 100 cms. focus distance 14"/17"	1 set	
6	Single or two plane set up of angiography room	1 set	
7	Automatic processing machine 90 sec.	1 set	

Nuclear Medicine Section

	Description of Equipment	Quantity	Remark
1	Shimadzu Scinti-Scanner SCC 150 W. including: - Vertical Scanning - Mini Scanning - Color Scanning - Multiple dot Scanning - Multiple Recording - Re - Scanning	1 set	

	Description of Equipment	Quantity	Remark
2.	Scinti - camera with data processing	1 set	
3	Automatic Gamma Counting Systems (300 samples)	1 set	
4	Hand, Foot, Clothes Monitor	1 set	
5	Low Energy collimator for brain scanning	1 set	
6	Pulse - High Analyzer	1 set	
7	Pulse - High Analyzer	1 set	
8	High Voltage Supple Unit		
9	Equipments for Radio - isotope Therapy	1 set	
10	Equipments for Tissue Culture	1 set	

Clinical Research for Cancer Therapy Division

Surgery Section

	Description of Equipment	Quantity	Remark
1	Fibreoptic flexible type laryngoscope with biopsy attachment,	1 set	
2	Fibreoptic rigid type bronchoscopes	1 set	
3	Gynecology Examination Table	3 sets	
4	Head and neck examination Table	3 sets	
5	Electric dormatome (Brown type)	1 set	
6	Electric bone saw (Brown type)	1 set	
7	Mediastinum bone saw (Electric type)	1 set	
8	High Speed Electric Autoclave (Small for operating room)	2 sets	
9	Cryosurgery instrument (for general surgery)	1 set	
10	Set for Epidural Anesthesia	3 sets	
11	Set for Spinal Anesthesia	1 set	
12	Set for caudal Anesthesia	3 sets	
13	Anticancer infusion pump	3 sets	
14	Colonofiberscope 100 cm. type KB.	1 set	
15	The remaining items, requested in 1973 budget (only those have not yet been approved by Japanese Goverment)		

Radiation Therapy Section

	Description of Equipment	Quantity	Remark
1	Orthovoltage X-ray Therapy Unit (100 - 300 Kr)	1 set	
2	18 Mev Linac	1 set	
3	Gamma dosemeter (Scintillation)	1 set	
4	E.B.T. treatment set	2 sets	
5	Lead shield for radium patient	8 sets	
6	Mobile radium container	2 sets	
7	Thermoluminescent dosemeter	1 set	
8	Body phantom	1 set	
9	Cobalt therapy 6000 Curies	1 set	
10	Film scanner	1 set	
11	Background monitor system	1 set	

Clinical Laboratory Division

Microscopy and Hematology Section

	Description of Equipment	Quantity	Remark
1	Haematocrit Reader	1 set	
2	Hemoglobinometer	1 set	
3	PH. meter	1 set	
4	Blood cell counting chamber	3 sets	
5	Electrophoresis with accessories for hemoglobin.	1 set	
6	Binocular microscope with accessories	1 set	
7	Phase microscope with accessories and camera.	1 set	

Biochemistry Section

	Description of Equipment	Quantity	Remark
1	Chloride metre	1 set	
2	PH. metre	1 set	
3	Biltrubinometer	1 set	
4	Hand Protein Refractometer	1 set	
5	Flame Photometer	1 set	
6	Atomic absorption spectrophotometer	1 set	
7	Centrifuge (Kubota)	1 set	
8	Electric Balance	1 set	
9	Taiyo Incubator K-IN	1 set	
10	Ionizing equipment	1 set	
11	Delicate tools to repair damaged apparatus.	1 set	

Bacteriology Section

	Description of Equipment	Quantity	Remark
1	Colony Counter	1 set	
2	Fluorescence microscope with accessories	1 set	

Cytology Section

	Description of Equipment	Quantity	Remark
1	Binocular microscope with built-in light source and accessories	1 set	
2	Binocular microscope with built-in light source.		
	- Super - wide field (Olympus)	1 set	
3	Slide projector for 35 mm. photomicrograph (NIKON) with automatic focus.	1 set	

Pathology Section

	Description of Equipment	Quantity	Remark
1	Auto - technicon	1 set	
2	Pumping unit for embalmed the bodies	1 set	
3	Electric bone saw, Table - type	1 set	
4	Triple Balance	1 set	
5	Tissue embedding combination (Cryo - Term, complete with vacuum in filtrator and paraffin dispenser)	1 set	
6	Nikon Microscope - Binocular Model L - Ko series (One set c photographic equipment Model AFM or other latest model)	1 set	
7	Microscope with Duo - observation attachment (Discussion Microscope)	1 set	
8	Dictaphone with foot - switch and hand control complete with microphone a. In the autopsy room with microphone hanging down from the roof (2 sets) b. For secretory to type (1 set) c. To circulate in the autopsy service for dictation.	4 sets	
9	Earphone to use with dictaphone for secretory.	1 set	
10	Inverted microscope (Nikon) with camera.	1 set	

Physiology Section

	Description of Equipment	Quantity	Remark
1	E.K.G. Recording Paper	100 packages.	
2	E.E.G. Paste	50 tubes.	
3	E.K.G. Needle Electrode	2 sets.	
4	E.E.G. Recording paper	50 packages.	
5	E.E.G. Needle Electrode (26 pcs 1 set)	2 sets.	

Blood Bank Section

	Description of Equipment	Quantity	Remark
1	Refrigerator for Blood Bank	2 sets	
2	Deep freezer	1 set	
3	Incubator (37 ° Constant - temperature)	1 set	
4	Water bath (Control constant temperature 37 °)	1 set	
5	Binocular Microscope with Built - in light source.	1 set	
6	Refrigerated Centrifuge.	1 set	

Research Division

Liver Cancer Project

	Description of Equipment	Quantity	Remark
1	A/G ratio test set (50 tests)	12 sets	
2	S - GOT - S - GPT test set (100 tests)	7 sets	
3	Reagent 403 for cholesterol determination (250 ml. bottle)	12 bottles	
4	Buffer Thymol (100 c.c. ampules)	40 A	
5	Buffer Zinc Concentrate (10 c.c. ampules)	40 A	
6	ALP Test Set (100 Tests)	7 sets	
7	Blood pipette for white blood cell count.	30	
8	Blood Pipette for Red Cell Count	30	
9	Microcapillary tube (Hematocritstuts)	5000	
10	Aculute	6 boxes	
11	Hyanine Solution 6 bottles (500 c.c. each)	3000 c.c.	
12	Ictostix test (50)	20 bottles	
13	Urobilistix (50)	20 "	
14	Uristix test (100)	10 "	
15	Centrifuge tube 15 c.c.	500 tubes	
16	Micro Slide Glass 76/26 mm.	5000 pieces.	
17	Cover Glass 22/30 mm.	5000 pieces.	
18	Australian Antigen	10 sets	
19	α_1 - Feto - globulin	10 sets	

5. 47年度年次協議調査団報告書

1. 調査団派遣の目的

タイ国立がん研究所プロジェクト（以下NCIプロジェクトと略称）に対する日本の医療協力事業5ヶ年計画（1967～1971）は1971年の年次協議によって、引続き3ヶ年延長され（1972～1974）たのであるが、年次協議（1971）の建築状況及び開設準備等の問題についての指導並びに技術的助言を行うため専門家として派遣された。

(1) 病院建設の進行状況を把握し、諸要の助言を与えること

(2) これまでのNCIプロジェクトの実績について検討すること。

(3) 専門家の診療行為に関すること

(4) 1973年度（タイ国会計年度1972．10～1973．9）までの器材の供与、タイ研修員の受入れ、日本人専門家の派遣に関すること

2. 調査団の編成および派遣期間

(1) 編　成

山田　昇：団長　運営、国立がんセンター運営部次長　事務官

伊藤一二：スーパーバイザー、外科部門臨床検査、内視鏡化学療法各部門　国立がんセンター病院棟部長　医師

北川俊夫：放射線治療および診断部門RI診断部門　外来部門、国立がんセンター病院放射線診療部長　医師

(2) 派遣期間

自1972年（昭和47年）10月29日

至1972年（昭和47年）11月12日

(3) 日　程

10月29日（日）	12：30	JAL453便にて一行3名、東京国際空港出発
	19：10	バンコック、ドンアム空港着、タイNCIのソムチャイ博士、バームサック氏　厚生省派遣小田調整員、松田技師の出迎えを受け、ソロリダホテルに投宿
10月30日（月）	9：20	タイ国政府、公衆衛生省を訪問、機構改革後の担当局である医療保健局長、Dr チャート氏および同次長Dr ビモール氏に挨拶
	11：00	日本大使館訪問、栗野公使、瀬崎一等書記官、鎌木二等書記官に挨拶 海外技術協力事業団（O．T．C．A）バンコック事務所を訪問、熊岸、森本両氏に挨拶（宮本事務所長、来日中であり出張不在）

	14：00	NCIソムチャイ博士を訪問挨拶
	14：30	OTCA熊岸氏と調査について打合せ
10月31日（火）	9：00	公衆衛生省コモル次官を訪問挨拶
	10：30	NCIソムチャイ博士と調査について打合せ建築の進行状況について詳細調査
	14：00	政府国家開発省技術経済協力局の局長、以下関係者訪問
	17：00	日本大使館で第1回総合会議について打合せを瀬崎書記官、熊岸氏と行なう。
11月1日（水）	9：00	第1回総合会議 新設機医療保健局Dr チャート氏同ピモール次長、DTEC、NCIソムチャイ博士以下関係者調査団一行外務省瀬崎一等書記官、鏑木二等書記官、OTCA熊岸氏、小田調整員、松川技師
	14：00	NCI ソムチャイ博士以下関係者と調査団打合せ
11月2日（木）	9：00	個別協議
	18：00	宮本OTCAバンコック所長 東京より帰タイ
	18：40	日本側打合せ
11月3日（金）	9：00	個別協議
	11：00	OTCA 宮本所長に現在までの調査内容の説明及び第1回総合会議（11月1日実施）内容について打合せ
	14：00	個別協議
11月4日（土） 11月5日（日）	フリー	夜 日本側打合せ
11月6日（月）	9：00	個別協議
	14：00	個別協議 研修員受入れ及び専門家派遣についてNCI調査団、OTCAと第2回総合会議を行なった。
	21：00	夜調査団及び小田調査員、松川技師を入れ明日に予定されている第2回総合会議に提出する調査団報告書の原案作成を行う。
11月7日（火）	9：00	OTCAにて宮本所長、熊岸氏、鏑木二等書記官と報告書、原案について打合せの結果、結論をえたので英文資料の作成を行なった。
	15：00	NCIと日本側OTCAとの間で第3回総合会議が開催され、午前中用意した日本側英文資料を検討、日本案をタイ側に提示した。

11月8日(水)		フリー
11月9日(木)	9:00	個別協議
	15:00	医療保健局Dr. ビモール次長出席のもと 第4回総合会議が開催された。
11月10日(金)	14:00	医療保健局Dr. チャード局長と調査団との間で討議録に署名
11月11日(土)		フリー
11月12日(日)	11:40	JAL742便にて離タイ

(4) 調査団の討議内容及び出席者

今回の主な調査項目は下記の7項目であり、11月9日第3回総合会議で検討合意に達し、11月10日双方合意のうえ覚書を交換したまた細部は個別会議で協議した。

1. N.C.Iの活動状況
2. 病院建築と諸問題
3. 専門家の診療行為
4. 供与機材
5. 専門家派遣及び研修員受け入れ
6. 個別協議
7. 年次協議

総合会議出席者

1. 日本側

山田 昇	国立がんセンター運営部次長
伊藤一二	国立がんセンター病棟部長
北川俊夫	国立がんセンター放射線診療部長
小田 保	在タイ国立がんセンター派遣調整員
松川牧作	在タイ国立がんセンター派遣専門家
宮本守也	海外技術協力事業団バンコク事務所長
熊岸健二	海外技術協力事業団 職員
瀬崎克己	在タイ日本大使館一等書記官
鏑木伸一	在タイ日本大使館二等書記官

2. タイ側

Dr. Cherd Donavanik		公衆衛生省保健医療局長
Dr. Vemol		公衆衛生省保健医療局次長
Dr. Vitool Sangsingkeo		〃 書記官
Mr. Krickkrai Jirapajt	D.T.E.C	担当官
Dr. Somchai Somboonchaorent	N.C.I	設立所長
Dr. Manop Kaenjinda	N.C.I	外来部長

Dr. Phisit Phonthumachinda　N.C.I 早期がん発見センター長
Dr. Sinalai Thonapat　N C I 臨床検査部長
Dr. Phaibul Sangobwarcher　N C I 核医学部長
Mr. Permsak Charbthanorn　N.C.I 事務長
Dr. Vannee Tesauibul　N.C.I パブリックエデュケーション

調査の内容

数次にわたる総合会議及び個別会議の結果は、別添討議録、個別討議録のとおりであるが、附記すべき要点について以下に述べる。

(1) 国立がん研究所所管のタイ政府機構の改正について

1972年10月1日機構改革により、従来より直轄事業とされていた、国立がん研究所設立計画の所管が医療保健局の指揮監督を受けることとなり、コモル次官の手から、Dr.チャート医療保健局長Dr.ビモール医療保健局次長の所管となったことである。

(2) N.C.Iの組織

1971年年次協議の際の7部の外に研修部門及び看護部門を新らたに設置し組織の強化がなされた。

(3) 職員数

1971年の職員数121名に比し159名と増員され、現員についても58名から85名と強化されている。

	医師	薬剤師	技術者	技術助手	看護婦	看護助手	事務官	MSW	統計技術者	会計士	秘書	計
定員	26	2	20	14	29	37	26	1	1	2	1	159
現員	19	2	16	11	7	8	17	1	1	2	1	85

(4) 建築計画

1971年　年次協議の際、1972年4月末に内装完了予定として引続き3ヶ年の援助計画の延長を協議したのであるが詳細に調査したところ1973年3月末までに完成予定で努力中であり、予算的にも、完成に引きつづき「がん専門病院」としての機能を発揮できるよう人的、物的経費の計上をみており、1973年4月以降数ヶ月を入院患者受入れ準備期間とし、1973年10月（タイ会計年度1974年）に開設する予定である。また開設記念式にはできうれば1973年12月10日の創立記念日に併せて考えている模様である。

現状について述べると7階建治療部門及び病棟部門工事の全体躯体打ち工事は完了し窓枠サッシの取付けもほぼ行なわれておりその工事工程は約70%程度進行中である。しかし工事材料でタイ国で調達できないもの、供与機材の未到着による工事の遅延については、極力これが改善を行ない予定完成日に終るよう工事関係者と協議した。

1F　11月末までに終了予定、放射線部門ボイラー給食、解剖等スペース

ボイラーの据え付けは、１２月～１月頃となる。ただし据え付けは手術部門、中央材材室部門との連けいがあるので専門家の派遣をまって据え付け整備する必要がある。

２Ｆ　７０％完成

ＲＡ病室８Ｂ及び統計Public Education のスペースであるがＲＡ病室を除いてほぼ完了

３Ｆ　６０％

手術及び中材部門として、１２月末日完成予定であるが手術場の見学者ドームの天がい工事材材がタイ国で入手できない資材を充てているため、外国から取り寄せる期間と、ドームにとりつける照明器具の供与物品到着時期によって工事期間が左右される。

４Ｆ　７５％

病室１６Ｂ　ＩＣＵ病室１２Ｂ　計２８Ｂと会議室であるが内部仕上中である。

５Ｆ　７５％

病棟部門６５Ｂ

６Ｆ　７５％

病棟部門　７０Ｂ

７Ｆ　５０％（一応看護宿舎にしておいてあとで９Ｆに代える）

病棟部門　５４Ｂ

８Ｆ
９Ｆ　１９７３タイ会計年度予算で整備費５３６万バーツ計上され今後建設されるが８Ｆは病棟　４０Ｂ　９Ｆは看護婦宿舎となる。

(5) 参考事項

Ａ　機材供与に関すること

(1) 供与機材の英文説明書を添付すべきこと。

機材の操作方法、破損時の修理方法について詳細な英文説明書を必ず添付すべきである。操作上の誤りまた操作方法の不明により機材供与の本来の目的を達することなく機器の放置また耐用寿命をいたずらに縮めることとなろう。

(2) 機材特に医療機材購入契約における銘柄選定について機材供与にあたっては、当センターの習得技術に即応した機材の選定が必要である。何故ならば医療技術は、その機器によって大きな影響を及ぼし又当センターの機器によってトレーニングが行われるため診療行為上ゆるがせにできないものである。

又機材の取扱い上のミス、故障、不調等が応々にして発生するが現時点において、タイ国及びタイ国人独力による処理は期待できない。これらに対処して、機材購入契約にあたっては、タイ国内に出先又は代理店を有するメーカーの製品を選定すべきである。